

令和6年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第1回）【概要】

日 時：令和6年7月25日（木）午前10時から正午まで

会 場：千葉県庁 多目的ホール

1 出席委員（敬称略・名簿順）

佐藤 智司、野上 亮、吉野 毅、武富 恒徳、榊原 正策、丸 庸仁、中田 邦明
佐久間 勝彦、粕谷 哲也（会長）、富永 安男（副会長）、榎本 茂

2 次第

(1) 開会のことば

(2) 県教育委員会挨拶

(3) 委員紹介

(4) 会長、副会長選出

(5) 報告

ア 令和6年度千葉県公立高等学校入学者選抜について

(ア) 結果について

(イ) 調査書の評定について

(ウ) 中学校及び高等学校からの意見について

イ 令和7年度千葉県公立高等学校入学者選抜について

(ア) 入試日程について

(イ) 令和7年度千葉県公立高等学校第1学年入学者選抜要項について（別配付資料）

ウ その他

(6) 協議

ア 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について

イ 令和8年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案について

ウ その他

(7) 閉会のことば

3 報告に対する意見・要望等

【ア 令和6年度千葉県公立高等学校入学者選抜について】

- ・ウェブ発表でミライコンパスを活用して学校からも確認できるのは好評だった。
- ・インターネット出願やウェブ発表について、インターネット環境がない家庭には中学校でフォローした。
- ・合格発表時において高校を回ったが、ウェブ発表で変わったという点を実感できなかった高校もあった。合格者用の資料が少ないのであればホームページへの掲載で十分ではないか。実情に応じてということであったが、高校によっては変更しなか

ったのではないかと感じる。

- ・事務室関係書類（学校徴収金などの口座依頼書）によっては、紙媒体を出さなければならない。口座登録などの方法について検討が必要。地域の実情によっては金融機関が限られてしまうことが懸念点である。

【イ 令和7年度千葉県公立高等学校入学者選抜について】

- ・入学者選抜要項でインターネット出願について触れられていないことは、周知の点で問題が大きいのではないかと感じる。志望変更についてもインターネット出願で行うので、書かれていなければいけない。

4 協議内容

ア 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について

【事務局説明概要】

○調査書について

- ・昨年度の協議会では、他県の情報を集めつつ、今後検討していくとした。
- ・公立高等学校へ実施したアンケート調査の結果から、
- ・調査書の項目等について、文科省より真に必要な事項に精選するよう通知が来ている。

○検査（国語の聞き取り検査）に関すること

- ・国語の聞き取り検査は、平成20年度選抜から導入。
- ・中学校の学習指導要領が平成29年度に改訂され、目標は3つの柱で再整理された。
- ・昨年度の本協議会でも、国語の聞き取り検査については、見直してもよいのではという御意見をいただいた。
- ・受検者の解答時間が少なくなっている点を踏まえ、国語の聞き取り検査の見直しが必要ではないか。

○外国人の特別入学者選抜について

- ・現在、全日制の課程12校と全ての定時制の課程16校において実施している外国人の特別入学者選抜の実施校数を増やすことについて意見をいただきたい。

○転学・編入学について

- ・千葉県の転学試験の応募資格について意見をいただきたい。

【調査書について】

- ・高校側としては、学力検査のみではなく、各中学校でどれだけ一生懸命生活していたのか、努力の成果や活動経験を見取っている。調査書に多くの項目があっても無駄ではないというのが率直な意見である。
- ・中学校校長会では、行動の記録、総合所見を削除していただきたいと要望している。高等学校が必要とする情報は記載しなければならないという認識でいる。しかしながら、総合所見は学級担任個々の表現力で書かれ、表現力の差違や担任の主観も入っている。総合所見を数値化し、合否の判定に用いることはできないのではないかと感じる。

アンケート調査で「活用なし」と回答している高校が一番多いことを考えると、必要としない方向にしてもらいたい。生徒個々の非常にナイーブな個人情報でもある。入学決定後、指導要録の写しや抄本を中学校から高校には送付することから、総合所見が入試で必要な情報であるかは慎重に検討していただきたい。

- ・総合所見の文章の作成力的なところで判定基準にされるのは、中学校側にとっては心配である。
- ・私立はそれぞれの高校が決める問題である。調査書は公立の基準に従っている高校がほとんどではないか。
- ・多様性の時代なので、スポーツができる、基本的な生活習慣ができてい、勉強ができるなど、生徒それぞれのいいところを評価している。
- ・総合的な学習の時間の記録を削除すると、中学生が総合的な学習の時間をどのように受け止めていくのが懸念される。

【聞き取り検査について】

- ・聞き取り検査を実施している他都道府県やその出題方針がわかれば教えていただきたい。
- ・これまでも学習指導要領が変わったタイミングで入学者選抜の内容について検討が必要であったと思うが、国語に限らず、入学者選抜の問題で学習指導要領の意図に沿った見直しが必要となってくるのではないか。
- ・話す・聞くは大切であるが、会話文で聞くことに関する設問を作ることもできる。本当の意味で聞く力を見取るのであれば、聞き取り検査でなくてもよいのではないか。
- ・聞き取り検査について、10分程度で配点8点というのは気になる点である。
- ・小学校では、読み聞かせに始まり、聞き取る力を育てている。読み取る力が弱い児童でも、耳からの情報によって解答できる児童もいる。いろいろな子供がいることを前提にすると、聞き取り検査を残すことも大事ではないか。
- ・英語ではリスニングを行っている。国語で聞き取り検査を不要とするのであれば、英語のリスニングは必要、国語の聞き取りは不要とする、それぞれの理由を説明してもらいたい。

【外国人の特別入学者選抜について】

- ・外国人の受け入れについて、高校がどれだけ手を上げるかが不明だが、人数が増えたら枠を増やし、減ったら減らすという需要と供給の関係での解決とするべきではないか。
- ・入学後の支援体制の問題もあるので、どこまで増やすかは検討が必要ではないか。
- ・外国人の特別入学者選抜は、面接・作文だけであり、学力を測ることなく入学できるものなのか。
- ・外国人の特別入学者選抜は拡大していけばいいと感じている。日本語や英語が分か

- らない生徒には、学習指導課で予算化され、整備されたポケトーク及び学校が購入したものを活用して対応している。定期考査ではルビを振ったりして対応している。
- ・公立中学校では、帰国生徒や外国人生徒の編入学が増えている。言語も様々である。日本における外国人の割合も今後増えていき、外国人生徒も日本の社会の構成員となっていくことが考えられる。日本の子供たちと同じような教育を受けさせることが必要ではないか。市町村教委において小中学校で受け入れ、言語や生活に慣れさせていく教育をしているところである。言語の課題など乗り越えるべきハードルはあると思うが、高校にも外国人生徒が学べる環境が広がってほしい。
 - ・教育現場でしっかりと教育することで、日本社会に適応し、ビジネスや社会に繋がっていく。高校入試は、実情に合わせて、面接・作文などのフレキシブルな対応をしていくことは必要だろう。

【転学・編入学について】

- ・転編入について実績値はどうなっているか。また、千葉県にはどれだけの中途退学者がいて、転学でどのくらい防げそうか。予測的な数値を教えてください。
- ・他都県の状況、実績も併せていただきたい。
- ・私立高校ごとに、進路変更という形で対応している。通信制に転学する生徒が、特に1年生で多い。私立の転学状況について情報提供できるか検討する。
- ・県立学校では、年3回転入学試験を行っている。今後、理由を問わない転学を含めて、年間随時受け付ける学校を設けるなどの拡大について検討も必要になってくるのではないだろうか。
- ・転学は都市部に多いのではないか。試験の実績について情報をいただきたい。応募資格は多様性の時代に合わせてほしい。

イ 令和8年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案について

【事務局説明概要】

○令和8年度入学者選抜における日程について提示

- ・昨年度までのように3案程度を示してそれについて御意見をいただくのではなく、2月の第3回目の火曜日、水曜日に曜日固定した日程の素案をお示しして、協議会で御意見をいただきたい。
- ・令和10年度選抜は、検査が2月15、16日と早まっている。
- ・令和11年度選抜は合格発表が3月6日となっているなど、例外もある。
- ・曜日固定の考えで全てを満たす日程とするのは難しい。状況に合わせて調整していくことが現実的であると考えている。
- ・毎年、曜日固定の素案を出した上で、「日程決定の確認事項」に照らして調整していく方法について御意見いただきたい。

- ・採点のため、検査翌日は休業日にすればいいのではないかと。
- ・教員があいている時間に採点をすることで、ペアが異なるようなことが起こりうるから、採点ミスが起こるのではないかと。
- ・この3年間実施した、新入生や新入生保護者へのアンケート調査をどのような理由でやめたのか、結果から分かったことを知りたい。総括をすべきである。
- ・提示された案では、検査日について、基本的に2月下旬としているのにもかかわらず、2月中旬に設定されているのはいかがなものか。
- ・東京、埼玉、神奈川の卒業式、2次試験などがどのような日程となっているか、示していただきたい。千葉県の場合が妥当か確認できる。
- ・私立の入学試験が早いことが原因で公立高校への入学者が減っているのではなく、学びたい学校を選ぶという観点で、公立高校から目を背けている生徒もいる。
- ・火曜日水曜日固定で、千葉県の公立高校の入試をブランド化できている。日程について、先が見通せることはいいことだと感じる。
- ・各高等学校では、採点処理日というものを設定しているところが多く、授業と並行するのではなく集中して採点する高校がほとんどである。しかしながら、ミスがあったことは真摯に受け止めなければならない。
- ・入学者選抜までの必要な日数はある程度かかってしまうのは致し方ないことではないだろうか。
- ・完全固定ではない、状況に応じた対応は必要となってくるだろう。

ウ その他

- ・各高等学校では、スクール・ポリシーを前面に打ち出すようにしている。各学校が求める人材を選抜できるよう、学力検査の内容について各学校で柔軟に決めることができるような改善を検討してもらいたい。例えば、学力検査において、5教科の検査を英語・数学の2教科受検とするなど、各学校が選択できるようにしてはどうか。
- ・学校設定検査に思考力を問う問題があるが、基礎力を問う問題を新設してはどうか。
- ・インターネット出願については、紙の願書でできなかった機能もつけてほしい。